第２講
南アジア・西アジア・アフリカ［テキスト］

［１］　南アジアの降水量は，全体的に東部で多く，西部で少ない。とくにパキスタンは国土のほぼ全域が乾燥帯に含まれ，外来河川インダス川からの灌漑によって農業が成立している。バングラデシュなど東部はサイクロンの影響も大きく，ガンジス川の形成する巨大なデルタはしばしば水害に見舞われる。

　なお，カトマンズはネパールの首都。ヒマラヤ山脈の南側斜面に位置する高山都市である。

［２］　南アジアの宗教構成は重要。

バングラデシュ・・・イスラム教。かつてパキスタンと連邦国家を形成。

インド・・・ヒンドゥー教徒。ただし東部にはイスラム教徒も多い。

パキスタン・・・イスラム教。

スリランカ・・・多数派シンハリ人は仏教徒だが，北部の少数派タミル人はヒンドゥー教徒(インド半島から移住)。

カシミール地方・・・藩王はヒンドゥー教，領民はイスラム教。インドとパキスタンが帰属を争う。

各宗教の特徴も知っておこう。

仏教・・・托鉢の習慣があるため，豊かな農業地域にのみ伝播。日本やベトナムには大乗仏教(漢字文化)，スリランカやインドシナ半島には上座部仏教。とくに上座部仏教においては，男子は出家の義務がある。

イスラム教・・・１日５回の礼拝，聖地メッカへの巡礼，断食（１か月の間，日中は飲食が禁じられる)，豚肉を食することやアルコールの摂取の禁止など，教義が厳格。

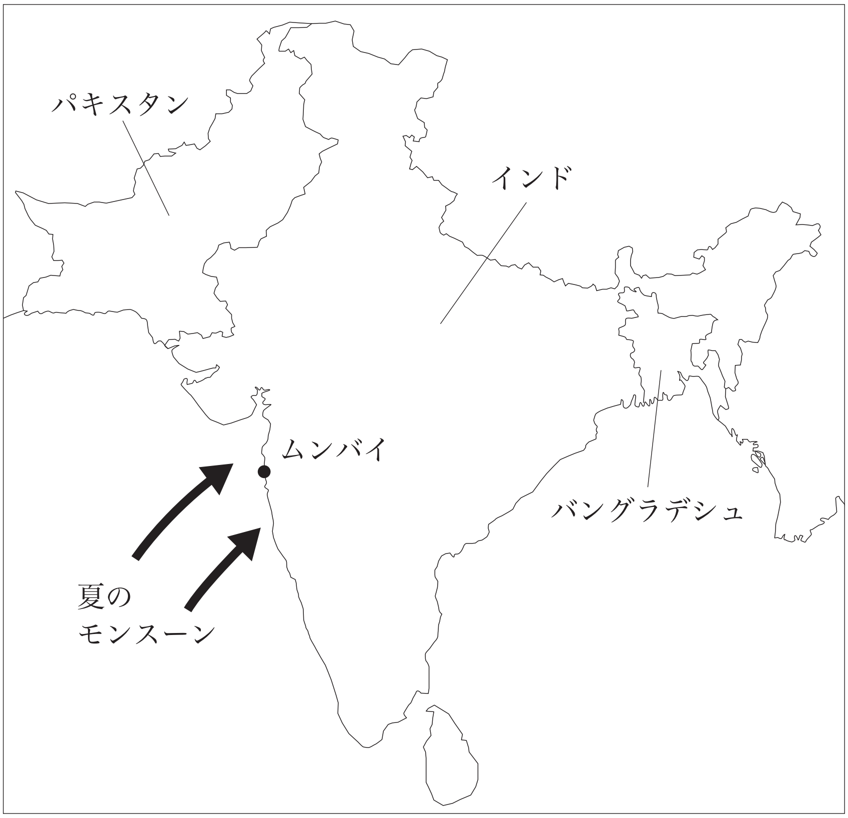
ヒンドゥー教・・・搾乳用や使役用に重用される牛を保護する。農耕地域を基盤とする宗教であるため，多産を奨励する。ガンジス川での沐浴。

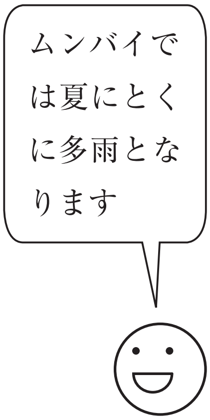
インドでは，ヒンドゥー教成立以前より独自の文化がみられる。

カースト制度・・・職業区分であるが，身分差別につながる。憲法では否定されているものの，農村を中心にカースト制に基づく階級区分意識は強く残る。

菜食主義・・・殺生を嫌うインドでは，肉類はあまり食されない。インドはイスラム教徒も多い国ではあるが（例えば，アラブのイスラム教徒は羊の肉をよく食べる），彼らも野菜や乳製品中心の生活を好む。

女性差別・・・インドを中心とした南アジアから西アジアのアラブ世界は，古代より女性の権利が著しく損なわれてきた地域。現在でも幼児婚が多く，女性の教育水準は低く，社会進出も進まない。





［３］　インドの都市をチェックしよう。

・コルカタ・・・ガンジス川水系のデルタに位置。自然堤防に市街地が広がる。ジュート工業など。

・ジャムシェドプル・・・豊富な資源に恵まれ，20世紀初頭より鉄鋼業が興る。

・デリー・・・首都。市内のニューデリー地区は計画的に開発された。

・ムンバイ・・・インド半島西部に位置し，モンスーンの影響で夏季に降水が集中。綿花栽培地を後背地にもち，綿工業が発達しているほか，自動車工業や石油化学工業なども。

・バンガロール・・・「インドのシリコンバレー」。アメリカ合衆国系の企業が，

本国との時差が約12時間であることを利用し，コンピュータソフト開発を進める。

［４］　黒海と地中海を結ぶ海峡の一つであるＰと，ペルシャ湾の出口であるＱに注目しよう。「石油輸送」と「大帝国が成立した歴史」がポイント。

西アジア諸国は，民族（言語系統）で整理する。

・トルコ･･･モンゴロイド系。首都は内陸部のアンカラだが，人口最大都市（1000万人を超える）はイスタンブール。東ローマやオスマン帝国の都でもあった海峡都市。イスラム教国であるが，政教分離が徹底。
・イラン・・・インド・ヨーロッパ系のペルシャ語を使用。首都テヘランは乾燥した高原上に位置。ペルシャ湾に面し産油量が多い。地下水路（カナート）を利用したオアシス農業。イスラム共和国である。
・アラブ諸国・・・イラクやサウジアラビア，ペルシャ湾岸の小国家など。アフロ・アジア（セム・ハム）系のアラビア語を使用。原油産出国が多く，とくにクウェートやアラブ首長国連邦などは１人当たりGNIが高い。王侯を中心とした君主国が多い。
・イスラエル・・・アフロ・アジア（セム・ハム）系のヘブライ語を使用。ユダヤ教を信仰するユダヤ人によって，第二次世界大戦後に建国された新国家。「警察国家」であり，GNIに占める軍事（国防）費の割合が高い。

［５］　紀元前にパレスチナ地方においてユダヤ教が生まれ，それを元としてキリスト教が，さらに新しい時代にイスラム教が，それぞれ成立。いずれもエルサレムを聖地の一つとする。

・イスラエルの成立・・・紀元前に古代イスラエルは滅亡し，ユダヤ人たちは世界中へと離散した。20世紀に入り，その子孫たちはパレスチナ地方に集まり，1948年に新国家イスラエルを建国した。しかし，その際にアラブ系イスラム教徒であるパレスチナ人たちは土地を失い，周辺国へと難民として流出した。ユダヤ人とパレスチナ人の対立は現在も続く。

［６］　・クルド人・・・トルコ・イラン・イラクなど複数の国にまたがって居住する山岳民族。人口は多いが，自民族による国をもたない。それぞれの国で迫

害を受ける。

・チェチェン人・・・ロシアのカフカス地方に居住(チェチェン共和国)。イスラム教徒であり，自治権拡大や分離独立を求める動きも。

・パレスチナ人・・・パレスチナ地方(現在のイスラエル)に居住していた人々で，アラブ系のイスラム教徒。イスラエル建国の際に居住地を追われ，難民となって周辺国へと流出した。

［７］　アフリカの地形環境。

安定陸塊の卓状地が広い範囲を占める。古大陸ゴンドワナランドの一部であり，高原状の地形となっている。低地の割合が低い。

北西部のアトラス山脈は新期造山帯に含まれる褶曲山脈であり，南東部のドラケンスバーグ山脈は古期造山帯で石炭を産出する。

大陸東部には巨大な断層(アフリカ大地溝帯)が走行し，プレートの広がる境界となっている。火山や断層湖がみられ，とくにキリマンジャロ山は標高6000m近くに達し，山頂付近には山岳氷河。

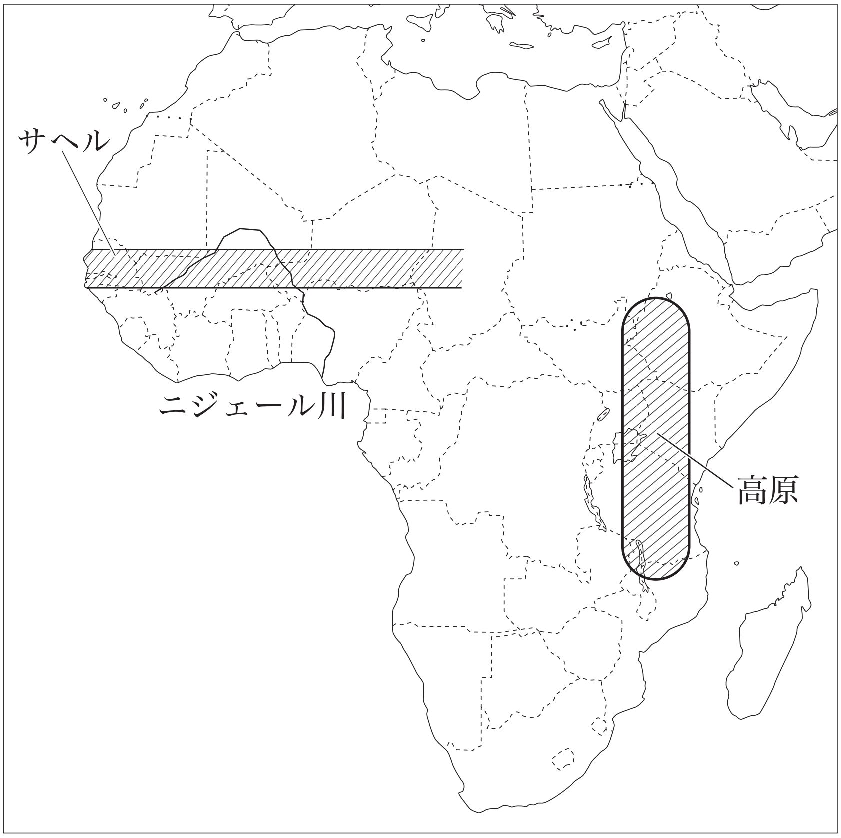
［８］　アフリカの気候環境。

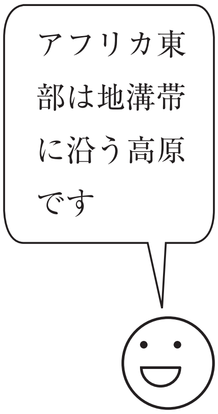
アフリカ大陸は北緯35°から南緯35°まで広がり，赤道を中心として線対称的な植生分布がみられる。

赤道周辺(コンゴ盆地・ギニア湾岸)・・・熱帯雨林
緯度15°付近(サヘル地帯)・・・ステップ
緯度25°付近(サハラ砂漠・カラハリ砂漠)・・・砂漠
緯度35°付近(モロッコ沿岸部・ケープタウン)・・・硬葉樹(地中海性灌木林)

図１は，「１」に注目しよう。スタート地点はいずれも低緯度の地点であるが，**図３**を参照すると**ウ**のみ気温が低くなっている。

さらに**ア**と**イ**の判定については植生がポイント。熱帯雨林と砂漠の分布を考える。沿岸部でも砂漠になっている地域に注意。





［9］　アフリカの民族と言語について。

　アフリカはまずサハラ以北の北アフリカと以南の中南アフリカに大別される。北アフリカは「ホワイトアフリカ」とよばれ，コーカソイドに分類されるセム・ハム系のアラブ人が居住。中南アフリカは「ブラックアフリカ」とよばれ，広くネグロイドが分布。極めて経済レベルの低い地域であり，衛生環境や食糧事情も悪く，乳幼児死亡率が高く，平均寿命は短い。熱帯地域を中心にマラリアが蔓延し，南部アフリカではHIVの感染者が多い。

　言語は，北アフリカではアラビア語が主に使用され，インド洋沿岸ではスワヒリ語を使用する国もある。しかし，中南アフリカの多くの国は，植民地支配の過程で民族・部族分布を無視して策定された境界が独立後も国境とされたため，複雑な言語構成をもつ国も多い。コートジボワールがフランス語，ナイジェリアが英語など旧宗主国の言語が公用語とされている。

　なお，宗教は北アフリカとサヘル地帯（セネガルやナイジェリア北部）がイスラム教であり，エチオピアがキリスト教（コプト派）。アラブ商人たちが岩塩交易のため，サハラ砂漠を越えて行き来し，イスラム教が伝えられた。ニジェール川沿岸のトンブクトゥーはかつての黒人王国マリの都であり，イスラム教のモスクが

つくられている。

Ｐ；ケニア内陸部に注目。赤道直下ではあるが，標高が高く気温が低いため，衛生条件が良く，ヨーロッパから入植が進んだ。ケニア山麓の高原地帯は「ホワイトハイランド」とよばれ，イギリス人によって茶のプランテーションが開かれた。逆に，西アフリカのギニア湾では沿岸部のみに分布。熱帯雨林地域であり，伝染病を恐れ，ヨーロッパ人の入植が内陸部にまで及ばなかった。

Ｑ；北緯15°付近一帯に分布する。やや乾燥した地域であるが，とくに外来河川沿いに展開した都市が多い。

Ｒ；インド洋の沿岸に沿う。

コートジボワールという国名はフランス語で「象牙海岸」の意味。ただし，ギニア湾に面する海岸部の植生は熱帯雨林であり，象の生息地域は内陸部のサバナ（疎林と熱帯草原）地域となる。内陸部から海岸の港湾まで象牙が運ばれたのであろう。

ギニア湾の沿岸には多くの港がつくられ，欧米との交易が盛んに行われた。象牙海岸の他，ガーナ沿岸が黄金海岸（内陸部で金鉱が採掘された），ナイジェリア沿岸一帯が奴隷海岸とも呼ばれた。

［10］　アフリカのほとんどの地域は欧米諸国の植民地となっていた。

・旧イギリス領・・・ナイル川沿岸・ガーナ・ナイジェリア・南アフリカ共和国。
・旧フランス領・・・北アフリカと西アフリカの広い範囲（アルジェリア・サヘル地帯・コートジボワール）。マダガスカル。
・旧ベルギー領・・・コンゴ盆地。コンゴ民主共和国のダイヤモンド鉱山を支配。
・旧スペイン領・・・モロッコ南部（西サハラ）。
・旧ポルトガル領・・・アンゴラ・モザンビーク。

第２講
南アジア・西アジア・アフリカ［練習問題］

［１］（2008年度地理Ｂ本試験第４問問２）

次の**ア**～**ウ**の文章は，**図１**中に示したカトマンズ，カラチ，コルカタ（カルカッタ）のいずれかの都市の気候について述べたものである。**ア**～**ウ**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

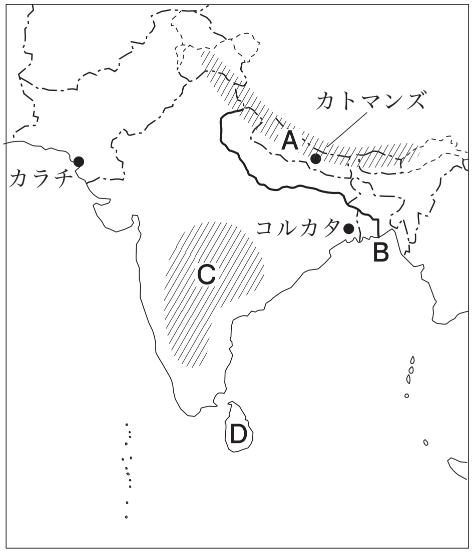


図　１

ア　雨季に年降水量の約４分の３の雨が降り，１年を通して高温である。サイクロンの襲来による被害を受けることもある。

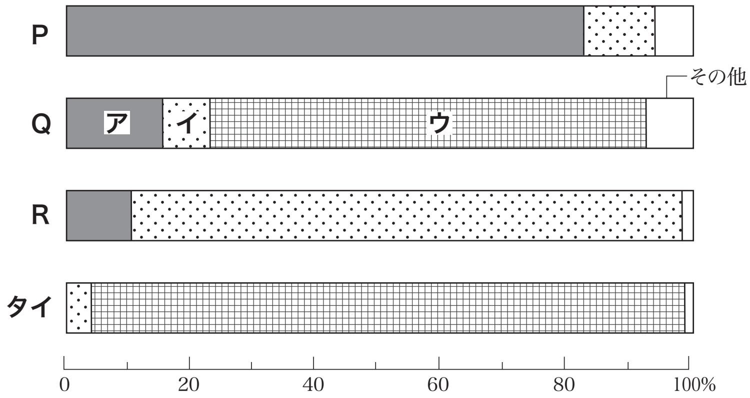
イ　雨季に年降水量の約４分の３の雨が降る。最寒月の平均気温が10℃，最暖月の平均気温が24℃と，１年を通して温暖である。

ウ　年降水量が200mmより少ない。気温の日較差は大きく，日中の気温が40℃を超えることもある。

	ア	イ	ウ
①	カトマンズ	カラチ	コルカタ
②	カトマンズ	コルカタ	カラチ
③	カラチ	カトマンズ	コルカタ
④	カラチ	コルカタ	カトマンズ
⑤	コルカタ	カトマンズ	カラチ
⑥	コルカタ	カラチ	カトマンズ

［**2**］（2002年度地理Ｂ本試験第３問問４）

次の**図４**は，インド，スリランカ，バングラデシュのいずれかの国とタイで信仰されている宗教について，宗教別の人口割合を示したものである。**図４**中の**ア**～**ウ**はイスラム教，ヒンドゥー教，仏教のいずれかであり，下の**写真１**の**ア**～**ウ**はそれらの宗教に関する写真を示している。**P**～**R**に該当する国名の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。



外務省『アジア・オセアニア各国要覧』などにより作成。

図　４

ア　　**イ**　　**ウ**

写真　１

（編集上の都合により類似のイラストに差し替えてあります。）

	P	Q	R
①	インド	スリランカ	バングラデシュ
②	インド	バングラデシュ	スリランカ
③	スリランカ	インド	バングラデシュ
④	スリランカ	バングラデシュ	インド
⑤	バングラデシュ	インド	スリランカ
⑥	バングラデシュ	スリランカ	インド

［３］（2007年度地理Ｂ追試験第２問問６）

次の**図３**中の**Ｋ～Ｍ**は，インドにおける主要な工業都市を示したものであり，下の**カ～ク**の文は，**Ｋ～Ｍ**とその周辺地域の工業について述べたものである。**Ｋ～Ｍ**と**カ～ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

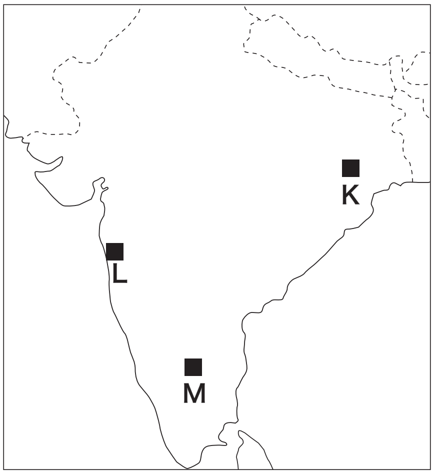


図　３

カ　綿花栽培地域を背景として綿工業が古くから盛んであり，現在では機械や石油化学工業も発展している。

キ　豊富な鉱産資源と水力をいかして，イギリス植民地時代に製鉄所が建設され，鉄鋼業が発展している。

ク　工作機械や航空機などの機械工業が盛んであり，現在では外国企業の進出とともにＩＴ産業が発展している。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｋ	カ	カ	キ	キ	ク	ク
Ｌ	キ	ク	カ	ク	カ	キ
Ｍ	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［４］（2014年度地理Ｂ本試験第４問問５）

次の**タ**～**ツ**の文は，**図１**中の**Ｐ**～**Ｒ**のいずれかの海峡について述べたものである。**タ**～**ツ**と**Ｐ**～**Ｒ**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

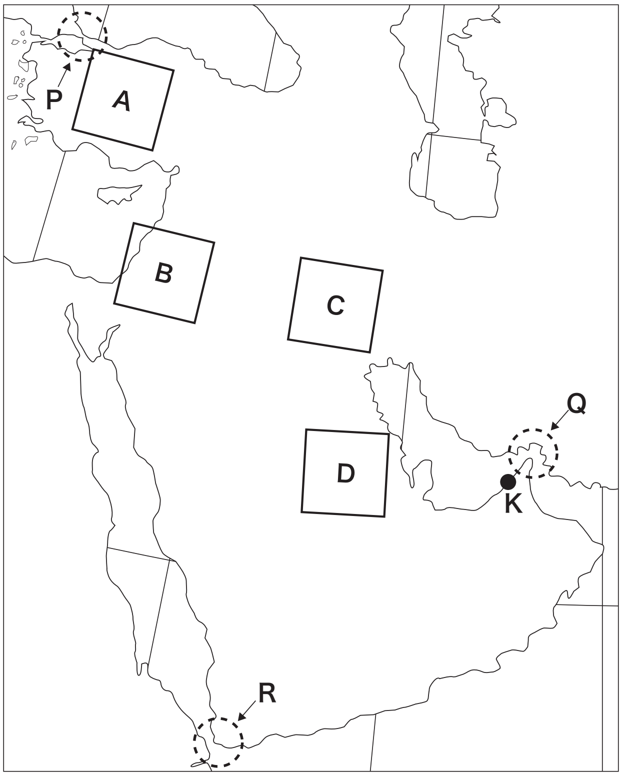


図　１

タ　古代より海上交通路の要衝（ようしょう）であり，近年この海峡付近で頻発する海賊被害は，国際海運の大きな障害となっている。

チ　世界の石油輸送の大動脈であり，この海峡の安定航行の確保は，日本をはじめ石油輸入国の安全保障にとって重要な問題となっている。

ツ　この海峡をまたいで大帝国が成立した歴史があり，当時の首都を起源とする都市は，現在その両側に市街地を拡大しながら発展している。

	①	②	③	④	⑤	⑥
タ	P	P	Q	Q	R	R
チ	Q	R	P	R	P	Q
ツ	R	Q	R	P	Q	P

［５］（2002年度地理Ｂ追試験第３問問３）

図１中の**Ｂ**の都市は三つの宗教の聖地であり，それぞれの信者が時に対立しつつ暮らしてきた。これら三つの宗教に該当しないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

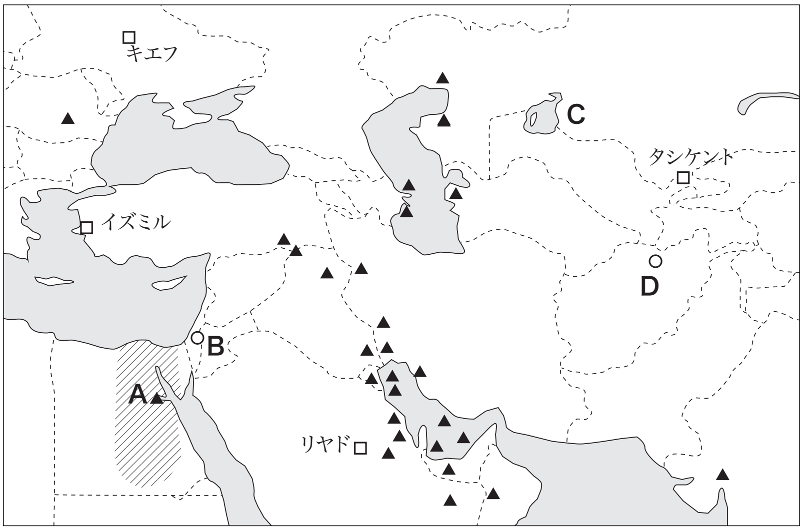
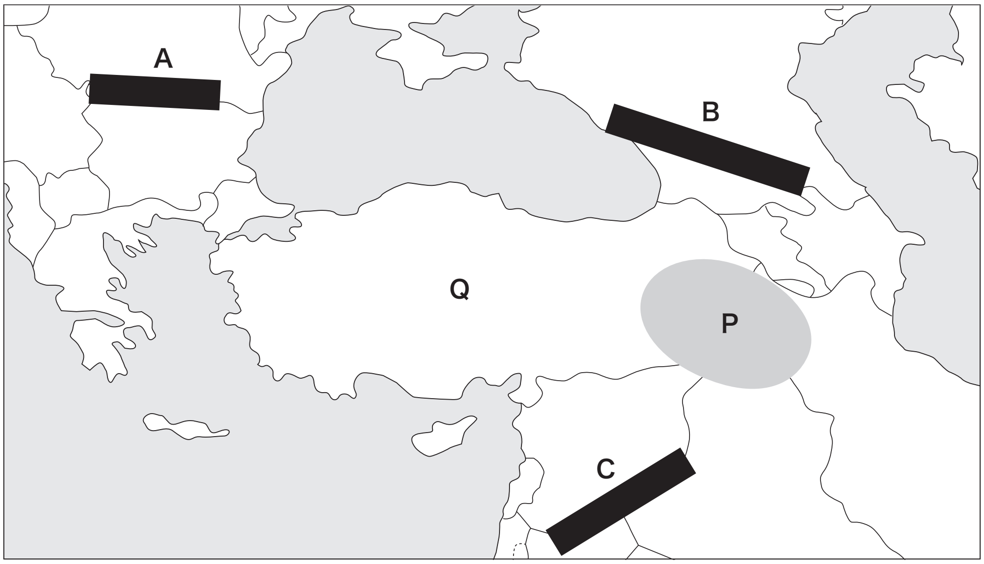


図　１

①　イスラム教　　②　キリスト教　　③　ヒンドゥー教　　④　ユダヤ教

［6］（2003年度地理Ｂ追試験第４問問２）

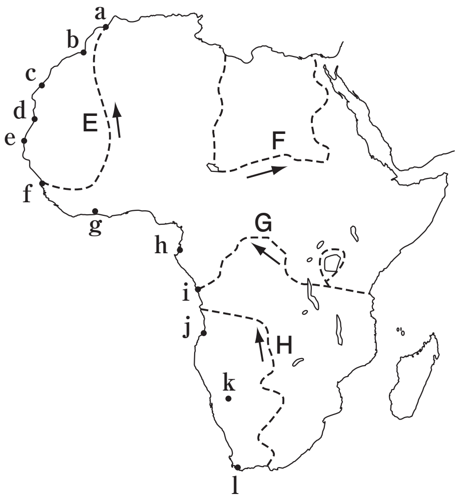
図中のＰ地域付近には，ある民族が居住している。この民族は自治・独立を要求しているが，難民となっている人々も多い。この民族名として正しいものを，下の①～④のうちから一つ選べ。



① アルメニア人
② クルド人
③ チェチェン人
④ パレスチナ(パレスティナ)人

［７］（2003年度地理Ａ本試験第１問問２）

図１中の**Ｅ**～**Ｈ**は，19世紀にヨーロッパ人探検家が通ったルートの一部である。それぞれのルートで現在みられる地形の特色を述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。



The Times Concise Atlas World History などにより作成。

図　１

①　**Ｅ**ルートでは，広大な砂漠を通ってきた後に，活発な噴火活動を行っている火山がみられる。

②　**Ｆ**ルートは，ほとんどが砂漠地帯を通っており，その途中で，外洋への流出河川をもたない内陸湖がみられる。

③　**Ｇ**ルートは，大陸の裂け目である大地溝帯を横断しており，その近くには，山頂が万年雪で覆われた高山がみられる。

④　**Ｈ**ルートでは，最初に，海岸の近くに急な斜面があり，その先には広い高原がみられる。

［８］（2007年度地理Ｂ本試験第４問問２）

次の**図３**中の**ア**～**ウ**は，**図１**中の**Ａ**～**Ｃ**のいずれかのルートについて，ルート上のそれぞれの５地点における気温と植生の変化を表したものである。**ア**～**ウ**と**Ａ**～**Ｃ**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

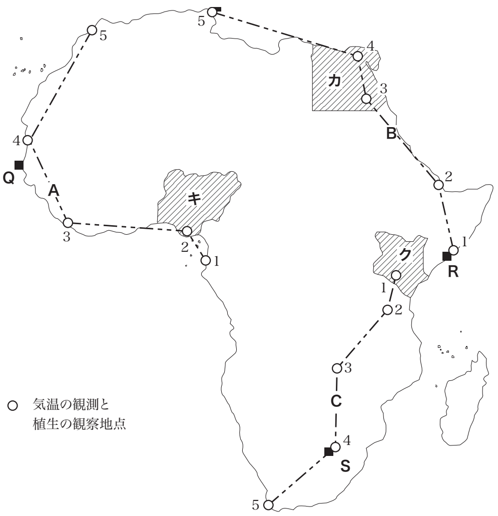
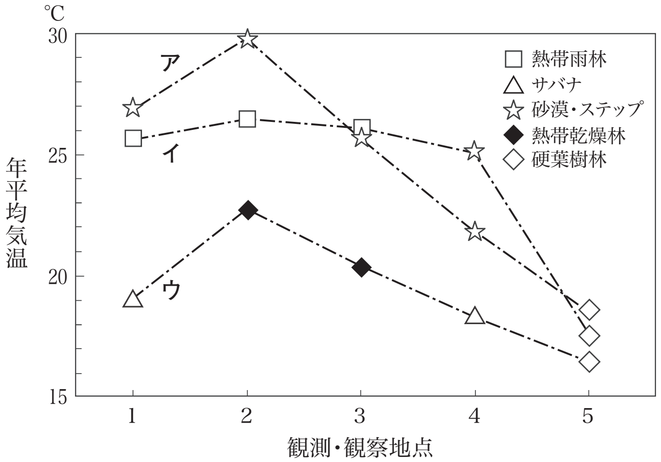


図　1



横軸は地点間の距離を示すものではない。
Diercke Weltatlas などにより作成。

図　3

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	A	A	B	B	C	C
イ	B	C	A	C	A	B
ウ	C	B	C	A	B	A

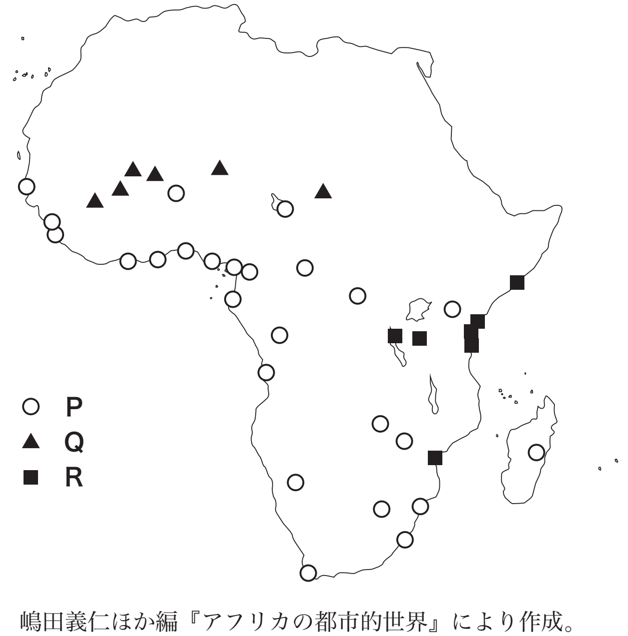
［９］ (2011年度地理Ｂ本試験第４問問５)

アフリカの都市は，地域の自然環境の特徴を背景とした歴史的な成り立ちの違いによって類型化できる。次の**図４**中の**Ｐ**～**Ｒ**は，アフリカのいくつかの都市について，その成り立ちの特徴ごとに分類して示したものであり，下の**サ**～**ス**の文は，そのいずれかを説明したものである。**Ｐ**～**Ｒ**と**サ**～**ス**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

サ　象牙(ぞうげ)などを商品とした交易の拠点として成長し，これらの都市を介してスワヒリ語が広がり地域の共通語となった。

シ　二つの異なる気候帯の境界付近に位置し，それらの一方からは岩塩など，他方からは金や森林産物などを商品とした交易の拠点となった。

ス　ヨーロッパ諸国による植民地経営の行政機能をになうものとして発達した都市であり，ヨーロッパ風の建築や街路パターンなどが残っている。



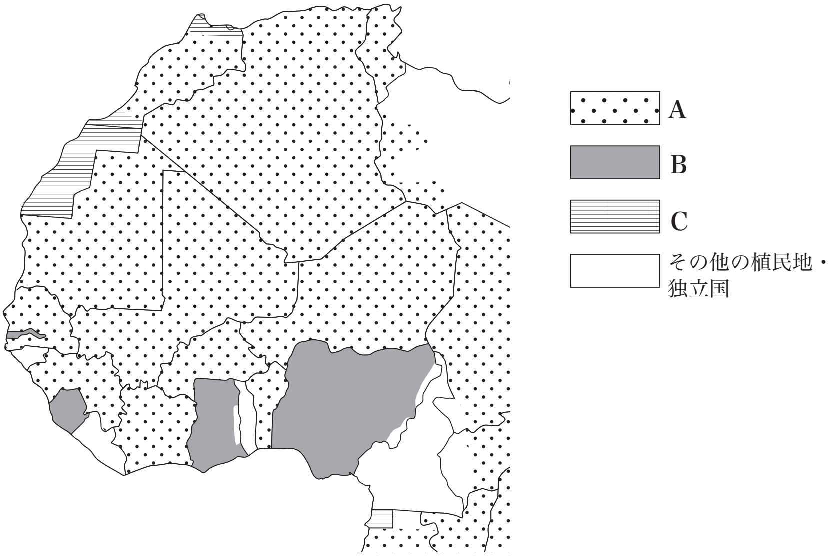
嶋田義仁ほか編『アフリカの都市的世界』により作成。

図　４

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｐ	サ	サ	シ	シ	ス	ス
Ｑ	シ	ス	サ	ス	サ	シ
Ｒ	ス	シ	ス	サ	シ	サ

［10］（2000年度地理Ｂ追試験第５問問６）

アフリカ諸国は，かつて植民地であったために，現在でも旧宗主国の影響が残っている。次の図中の**Ａ**～**Ｃ**は，1914年当時のイギリス領，スペイン領，フランス領のいずれかである。**Ａ**～**Ｃ**の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。



国境線は1996年のものである。
『Diercke Weltatlas』などにより作成。

	A	B	C
①	イギリス領	スペイン領	フランス領
②	イギリス領	フランス領	スペイン領
③	スペイン領	イギリス領	フランス領
④	スペイン領	フランス領	イギリス領
⑤	フランス領	イギリス領	スペイン領
⑥	フランス領	スペイン領	イギリス領

第２講
南アジア・西アジア・アフリカ［発展問題］

［１］（2005年度地理Ｂ追試験第１問問６）

次の**カ**〜**ク**の文章は，チベット高原を源流とするインダス川，ガンジス川，メコン川の本流に沿った地域について述べたものである。**カ**〜**ク**と河川名との正しい組合せを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

カ　中流部では，本流の一部が国境となっている。下流部では，雨季と乾季の水位の差が大きく，三角州（デルタ）には水田が広がっている。

キ　中・下流部は，乾燥地域となっている。ここでは多くの灌漑水路が引かれており，小麦などが栽培されている。

ク　中・下流部は，肥沃（ひよく）な平原となっている。下流部の三角州（デルタ）では，主に稲やジュートが栽培されている。

	カ	キ	ク
①	インダス川	ガンジス川	メコン川
②	インダス川	メコン川	ガンジス川
③	ガンジス川	インダス川	メコン川
④	ガンジス川	メコン川	インダス川
⑤	メコン川	ガンジス川	インダス川
⑥	メコン川	インダス川	ガンジス川

［２］（2003年度地理Ｂ本試験第３問問６）

スリランカにおける民族について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 人口の多数を占めるシンハラ（シンハリ）人と，少数派のタミル人との間で対立が生じている。

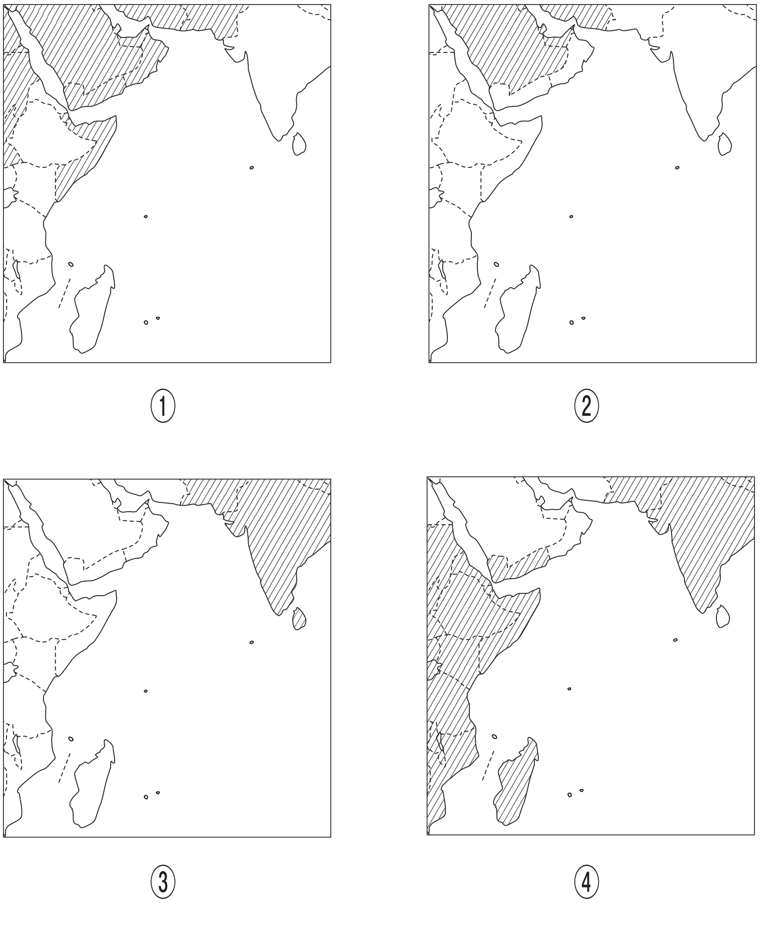
② シンハラ人の中では仏教徒の割合が最も高く，タミル人の中ではイスラム教徒の割合が最も高い。

③ シンハラ人が使用するシンハラ語とタミル人が使用するタミル語の双方が，スリランカの公用語となっている。

④ タミル人は，シンハラ人に比べると，インド南部との民族的つながりが，より深い。

［３］（2002年度地理Ａ追試験第１問問６）

次の**図３**は，インド洋西部沿岸の諸国について，イスラム教徒が総人口の60％を超える国，石油輸出国機構（OPEC）に加盟している国，人口密度が１km^2当たり100人以上の国，低所得国（１人当たり国民総生産が766ドル未満）と呼ばれる国の分布のいずれかを斜線で示したものである。イスラム教徒が総人口の60％を超える国の分布に該当するものを⑴に，人口密度が１km^2当たり100人以上の国の分布に該当するものを⑵に，**図３**中の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。



統計年次は1998年。『世界国勢図会』などにより作成。

図　３

［４］（2014年度地理Ａ本試験第３問問５）

次の**写真２**中の**タ**～**ツ**は，**図１**中の**Ｐ**～**Ｒ**のいずれかの都市で撮影されたものである。**タ**～**ツ**と**Ｐ**～**Ｒ**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

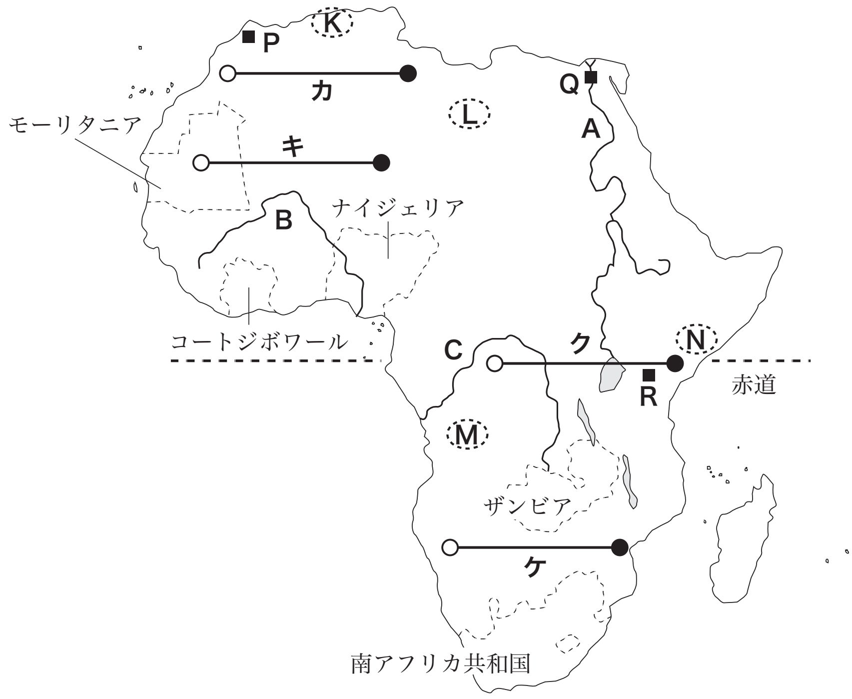
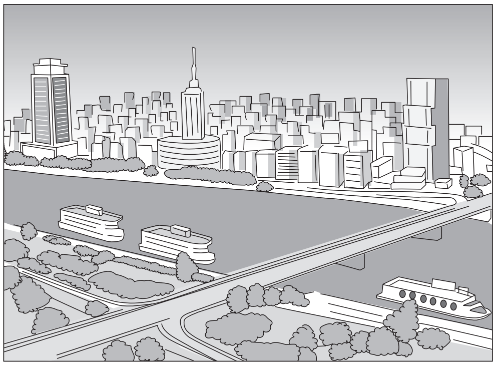
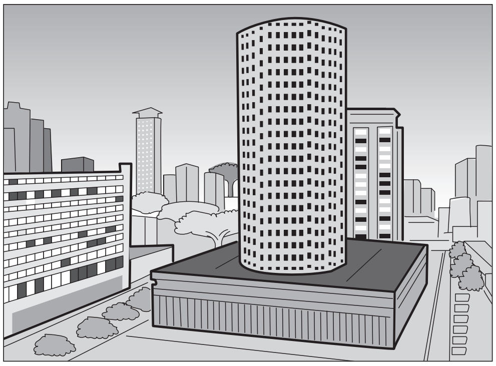


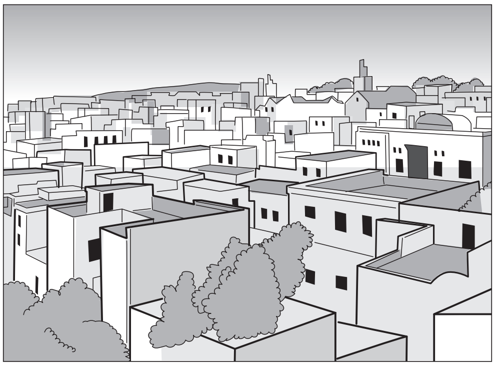
図　1



タ　商工業の盛んな観光都市



チ　白人の居住地から発達した行政・経済都市



ツ　密集した建物と迷路状の街路からなる歴史的都市

写真　２

（編集上の都合により類似のイラストに差し替えてあります。）

	①	②	③	④	⑤	⑥
タ	P	P	Q	Q	R	R
チ	Q	R	P	R	P	Q
ツ	R	Q	R	P	Q	P

［５］（2003年度地理Ａ本試験第１問問４）

今日では，アフリカの観光地も多くの客を集めるようになっている。次の**Ｐ**～**Ｒ**の文章は，**図３**中の**カ**～**ク**地点のいずれかの観光地を紹介したものである。**Ｐ**～**Ｒ**と**カ**～**ク**との組合せとして最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

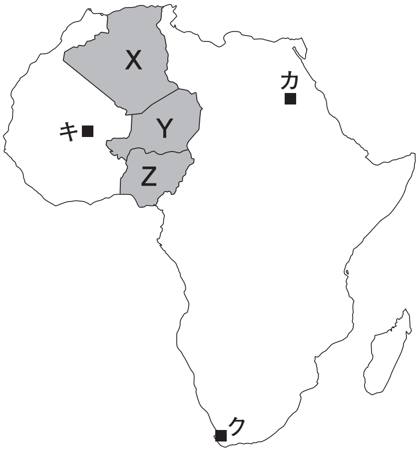


図　３

Ｐ　かつては隊商都市として栄えた。砂の中に埋もれてしまった繁栄の歴史が知られている。

Ｑ　日本への輸出も増えているワインの生産地である。丘の斜面や山間の盆地にブドウ畑が広がり，ワイン工場の見学もできる。

Ｒ　世界的に有名な巨大神殿がある。この神殿は，ダム建設時に水没を避けてそっくり移設されたものである。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｐ	カ	カ	キ	キ	ク	ク
Ｑ	キ	ク	カ	ク	カ	キ
Ｒ	ク	キ	ク	カ	キ	カ

第２講
南アジア・西アジア・アフリカ［練習問題］解答

［１］正解；⑤

カラチが含まれるパキスタンは国土のほぼ全域が乾燥気候である。**ウ**の年降水量「200mm」という数値に注目。これはかなり少ない。気温も高い（つまり蒸発量も多い）ため，乾燥気候とみていいだろう。**ウ**がカラチ。

さらに**ア**と**イ**については「高温」と「温暖」というキーワードの違いに注目。那覇（沖縄）については最寒月平均気温が15℃，最暖月平均気温が25℃であると考えてほしい。**イ**は那覇より気温が低く，熱帯ではなく温帯に含まれる気候である。標高が高く気温が逓減することを考え，**イ**がカトマンズになる。

沿岸部のコルカタは気温が高く，熱帯気候とみられ，**ア**が該当。「サイクロン」はインド洋（ベンガル湾など）で発生する熱帯低気圧であり，沿岸部に襲来する。

［２］正解；①

写真の判定から。**ア**はヒンドゥー教。人々が水に浸かっているが，これは「沐浴」。聖なる川であるガンジス川の流れに体を浸している。**イ**はイスラム教。ひざまずき，一方向（メッカの方向）に向かって礼拝を捧げる。イスラム教の礼拝所であるモスクの内側の風景。**ウ**は仏教。剃髪した男性が椀状のものを持っている。出家した僧侶が，托鉢のため各家庭を回っているのだろう。

これを踏まえて，図を参照。**P**はヒンドゥー教徒が多くインド（一定数のイスラム教徒がいることにも注目されたい），**Q**は仏教徒が多くスリランカ（少数派としてヒンドゥー教徒も存在），**R**はイスラム教徒が主でバングラデシュ。

［３］正解；③

Lのムンバイが非常に重要。インド最大の都市で，商工業の中心地である。デカン高原西部の綿花栽培地域を後背地に有し，イギリス植民地時代に綿花の積出港として発展。現在でも「綿工業」がキーワードとなる都市である。**カ**が該当。

さらにインド半島南部の**M**も重要。バンガロールは高原の保養地として欧米か

ら多くの人々が移り住んだが，やがてアメリカ合衆国系の企業が進出し，インドにおけるハイテク産業の中心地となった。「インドのシリコンバレー」である。**ク**が該当し，正解は③。

なお，**K**はジャムシェドプル。周辺の鉄鉱石や石炭資源を利用して，20世紀初頭に製鉄所が建設されている。水力は，近隣のダモダル川の開発による。

［４］正解；⑥

Pの海峡にはイスタンブールが接する。東ローマ帝国とオスマントルコの都として，キリスト教とイスラム教の文化が栄えた「東西文明の十字路」。**ツ**が該当する。「大帝国」の「首都」だったことが最大のキーワード。

Qの海峡はペルシャ湾の出口であることが重要。ペルシャ湾は浅い海域であり，多くの海底油田が開かれ，世界最大の油田地帯を形成している。「石油輸送の大動脈」より**チ**が該当。以上より，⑥が正解。

なお，**R**は**タ**に該当するが，近接するソマリアは無政府状態であり，海賊によってこの海域を航行する船舶に被害も生じている。

［５］正解；③

Bはエルサレム（イスラエル）。この地でユダヤ教が生まれ，その聖地とされているが，ユダヤ教から派生したキリスト教やイスラム教も同様に聖地としている。いずれも乾燥地域を起源とした宗教で関係性が強い。除外されるのは湿潤地域の宗教であるヒンドゥー教。

［６］正解；②

トルコやイラン，イラクなどの山岳地帯に居住地が広がっているのはクルド人。人口は多いものの，歴史上彼ら自身の国を有したことのない「悲劇の民族」で，現在もそれぞれの国で少数派となっており，一部では弾圧も行われている。

チェチェン人は，ロシア南部カフカス地域を居住地とし，チェチェン共和国を形成する。イスラム教徒が多く，ロシアからの分離独立の動きも。

パレスチナ人は，アラブ系のイスラム教徒でパレスチナ地方（現在のイスラエル）に居住。ユダヤ人の移住とイスラエルの建国によって難民となり，周辺国に流出。

現在はイスラエル国内に設けられた自治区に住む者も多いが，一部ではテロも生じているなど，不安定な状況にある。

［7］正解；①

火山の位置は重要。「新期造山帯＝火山」ではないので注意（例えば，ヒマラヤ山脈に火山はない）。アフリカ大陸においても新期造山帯であるアトラス山脈には火山は存在せず，代表的な火山は東アフリカのキリマンジャロである。

②；蒸発量が多いため，途中で水流がなくなる河川もみられる。

③；アフリカ東部には大地溝帯がある。キリマンジャロは赤道に近いが標高はおよそ6000mであり，山頂付近は万年雪や山岳氷河で覆われる。

④；アフリカ大陸は安定陸塊の卓状地であり，全体がテーブル状の地形となっている。高原大陸とも称される。海岸近くに急な斜面，内陸に広い高原というパターンが典型的にみられる。

［8］正解；③

それぞれ「１」の地点に注目しよう。グラフを参照するに，「ア１」と「イ１」は25℃を超え高温であるのに対し，「ウ１」は20℃を下回りやや冷涼。「Ａ１」，「Ｂ１」，「Ｃ１」はいずれも赤道に近く高温と思われるが，Ｃ１はケニアを示し，ここは標高が高く緯度のわりに冷涼な気候がみられる場所。これより，ウをＣと判定する。

さらに「２～４」に注目すると，アでは砂漠やステップ（つまり乾燥気候）となっているのに対し，イは熱帯雨林。これを図に当てはめ，エジプトなど砂漠地帯を通過するＢがアに該当し，ギニア湾岸の熱帯地域を通過するＡがイとなる。

［9］正解；⑥

Ｑに注目してほしい。アフリカ大陸最西端のヴェール岬（セネガル）から東方へと帯状に連なるのがサヘル地帯。砂漠化が進行するステップ地域である。Ｑはサヘル地帯に集中しているが，古来より岩塩の産地とされ，北アフリカのアラブ商人たちがこの土地をしばしば訪れていた。「二つの異なる気候帯」とは，サヘル以北の乾燥帯とギニア湾に面した熱帯のことであり，両地域からの生産物がこの地で交易された。Ｑがシになる。よく見ると，Ｑの配置はニジェール川に沿ってお

り（ニジェール川の流れ方については発展問題［４］の**Ｂ**を参考にしよう），水が得られにくい地域において外来河川のたもとに集落が発生した様子が見てとれる。

さらに**サ**の「スワヒリ語」に注目。ケニアやタンザニアなど東アフリカの伝統的な言語であり，公用語ともなっている。東アフリカに集まる**Ｒ**が**サ**となり，正解は⑥。

スについては「ヨーロッパ諸国による植民地経営」がキーワードであるが，注目してほしいのはケニア内陸部とギニア湾沿い。高温多雨で衛生環境が劣悪であるギニア湾岸についてはヨーロッパ人の植民は内陸部まで及ばず，沿岸に港湾都市を設けて，そこを植民地経営の拠点とするしかなかった。しかし，ケニアにおいては標高が高く気温が比較的低いため伝染病や寄生虫の心配が少なく，内陸部までヨーロッパ人が進出し，プランテーション経営や都市建設が積極的に行われた。ケニアの首都ナイロビも，イギリス人が建設した都市をルーツとする高原上の都市である。

[10]正解；⑤

アルジェリアとナイジェリアに注目するとよい。アルジェリア（図中で最も面積が大きい北アフリカの国）は地中海をはさんでフランスの対面に位置し，フランスの重要な植民地であった。一方，ナイジェリア（ギニア湾の東部に接する国）は，そもそもの国名が「ニジェール」の英語読みであることからわかるように，イギリスの植民地であった。多くの部族から構成される国であるが，国家統一をはかるために英語が唯一の公用語とされている。これより⑤が正解となる。

なお，モロッコの南西にあるスペイン領だった地域は西サハラであり，現在はモロッコが併合している。

第２講
南アジア・西アジア・アフリカ［発展問題］解答

［１］正解；⑥

インダス川が重要。砂漠国パキスタンを流下する外来河川である。「乾燥」，「灌漑」がキーワードで**キ**が該当。

さらに**ク**の「ジュート」にも注目。インド東部やバングラデシュの低地において栽培される繊維作物。この地域を河口とする河川がガンジス川（インド北部をバングラデシュ方面に向かって流れる）であり，**ク**が該当する。よって⑥が正解。

残った**カ**はメコン川で，インドシナ半島を流れる国際河川である。タイやラオスの国境ともなっている。

［２］正解；②

スリランカの主要民族であるシンハリ人は仏教徒だが，少数派のタミル人は「ヒンドゥー教徒」である。インドより移住してきた人々の末裔。

［３］正解；⑴①　⑵③

イスラム教については南アジアがわかりやすい。パキスタンとインドの違いに注目。パキスタンが該当し，インドが該当していない①が「イスラム教徒が総人口の60％を超える国」。

さらにサウジアラビアに注目。世界有数の原油産出国であり，OPECの代表的な国。サウジアラビアが含まれているのは①と②だが，①はすでに決定しているので，②が「石油輸出国機構（OPEC）に加盟している国」となる。

そして，②と④の該当国が対照的となっている点に注目。②がOPEC加盟国であるので，所得水準は高いはず。②と正反対の傾向にある④を「低所得国（１人当たり国民総生産が766ドル未満）と呼ばれる国」と考える。

消去法で③が「人口密度が１km^2当たり100人以上の国」である。なるほど，人口大国であるインドとパキスタンが含まれている。

［参考；OPEC加盟国］（★はアラブ民族が主である国）

西アジア・・・イラン・イラク★・サウジアラビア★・クウェート★・アラブ首長国連邦★

アフリカ・・・リビア★・アルジェリア★・ナイジェリア・ガボン・赤道ギニア・コンゴ共和国・アンゴラ

南アメリカ・・・ベネズエラ

［４］正解；④

タ；アフリカで観光が発達している国はエジプトである。中央部を流れる大河川はナイル川であろう。**Q**のカイロが該当。

チ；ヨーロッパ人の建設による近代的な都市。**R**のナイロビが該当。

ツ；迷路状の街路区画は西アジアや北アフリカの伝統的な旧市街地でみられる。日干しレンガが建材とされ，窓など開口部は小さくつくられる。**P**のフェスが該当。

［５］正解；④

カ；アブシンベル神殿。文中の「ダム」とは，ナイル川に沿う，アスワンハイダムである。洪水が防がれ，灌漑により農業の生産性が向上したものの，上流側からの肥沃な天然土の供給がなくなり化学肥料への依存度が上がるなど弊害も大きかった。ダム建設の際にダム湖に古代の貴重な遺跡が水没することがわかり，これを高所へ移設させるために莫大な費用が費やされている。**R**が該当。

キ；ニジェール川に沿い，岩塩交易で栄えたトンブクトゥー。かつての黒人王国マリの都であり，イスラム教が伝えられたため，土づくりのモスクもみられる。ただし，砂漠化の影響で都市機能が衰え，建造物も損壊の危機にある。**P**が該当。

ク；ケープタウン。おおよそ緯度35°の大陸西岸に位置し，地中海性気候がみられる。ブドウの栽培とワインの醸造。**Q**が該当。